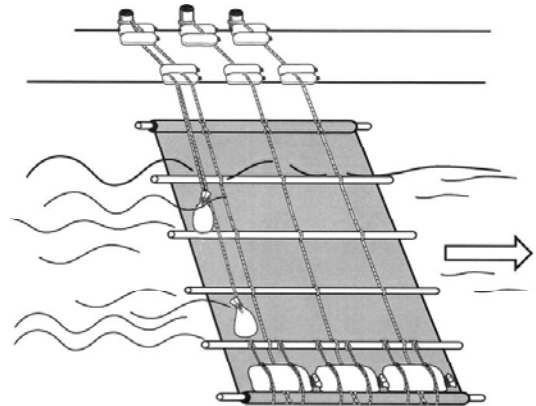


(2) シート張り工 (合成繊維シート)

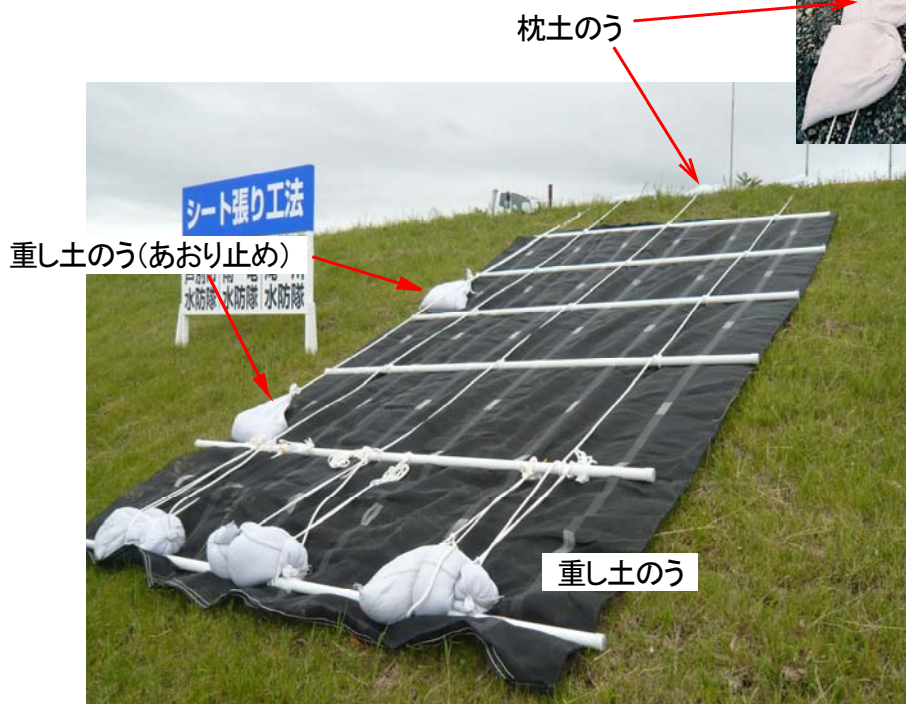
■目的

川側の堤防崩壊、及び透水を防ぐ工法です。むしろや土俵の入手が困難な今、その代わりに合成繊維のシートや土のうを使用します。



■基本的な作業フロー

- ①資材の用意 堤防上に合成繊維シートを広げ、骨パイプを取り付ける
- ②シート吊りロープの結束 かみくくし、のの字結び、フナ結び
- ③土のう作り: 17袋(内訳 重し土のう:3袋、あおり止め土のう:2袋、枕土のう:12袋)
- ④重し土のうの取り付け: 3袋 かみくくし、フナ結び
- ⑤あおり止めの重し土のう: 2袋 固結び、のの字結び、イボ結び
- ⑥枕土のう: 12袋
- ⑦留め杭の打ち込み、結束 フナ結び
- ⑧シートの投げ入れ



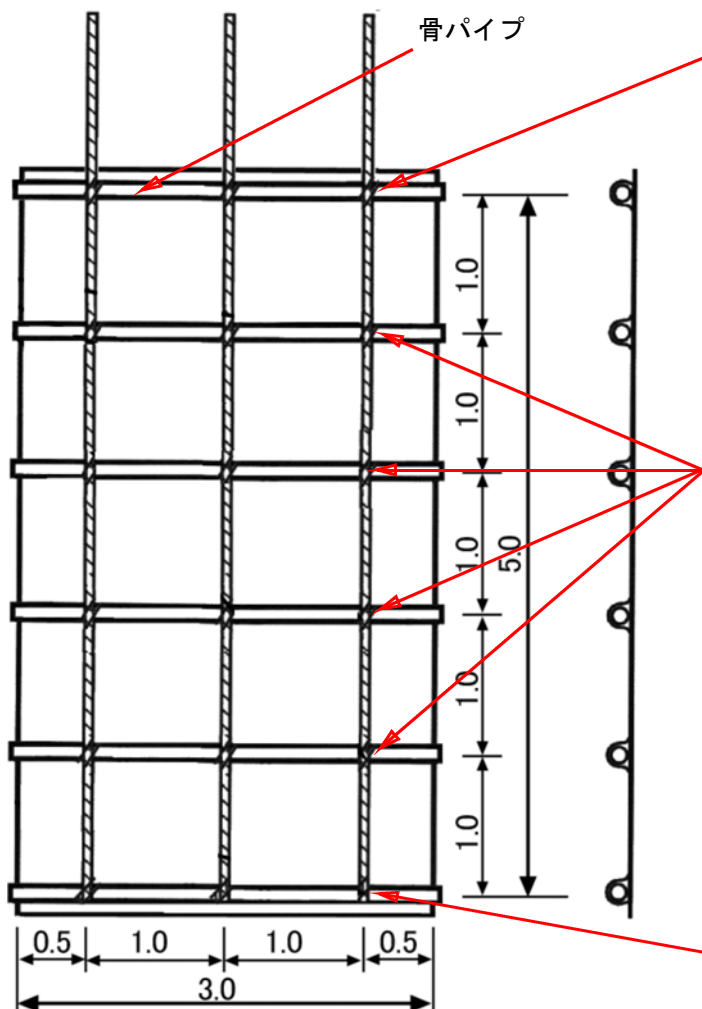
■作業手順

①資材の用意

合成繊維シートを堤防上面に広げます。骨パイプ6本は下図のようにシートの切り込みに通します。

②シート吊りロープの結束

シート吊りロープ（25m）を結束します。上のパイプから、かみくくし（巻き結び）、中間のパイプにはのの字結び（半結び）、下のパイプにはフナ結び（より結び）の順番で取り付けます。



かみくくし



のの字結び



フナ結び



※一番上の骨パイプにかみくくしをする場合の目安はロープ長7mの箇所とします。
 結束する前に、シートの縦5mにロープを張り、+2mを目安とします。

③土のう作り

土のうの袋詰めは17袋行います。

そのうち3+2、計5袋を重し土のうとして使用します。

④重し土のうの取り付け

まず3袋の重し土のうをシート下部のパイプに取り付けます。

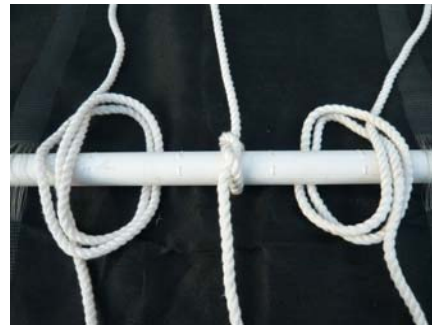
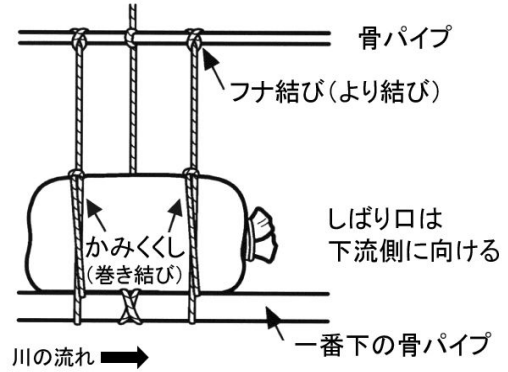
土のう1袋につき2本のロープ(6.5m)を使います。まず土のうを乗せないで骨パイプにかみくくし(巻き結び)を行います。

余ったロープの両端の長さを揃えてください。

そのかみくくしをゆるめて(写真)、その中に土のうを挿入します。土のうはしばり口を下流側に向けて取付けてください。

土のうを固定し、余ったロープの両端はまとめて上のパイプへぶら下げるようにフナ結び(より結び)にします(写真)。

重し土のうを取り付けたシートは土のうを芯にして、すのこ巻きにします。

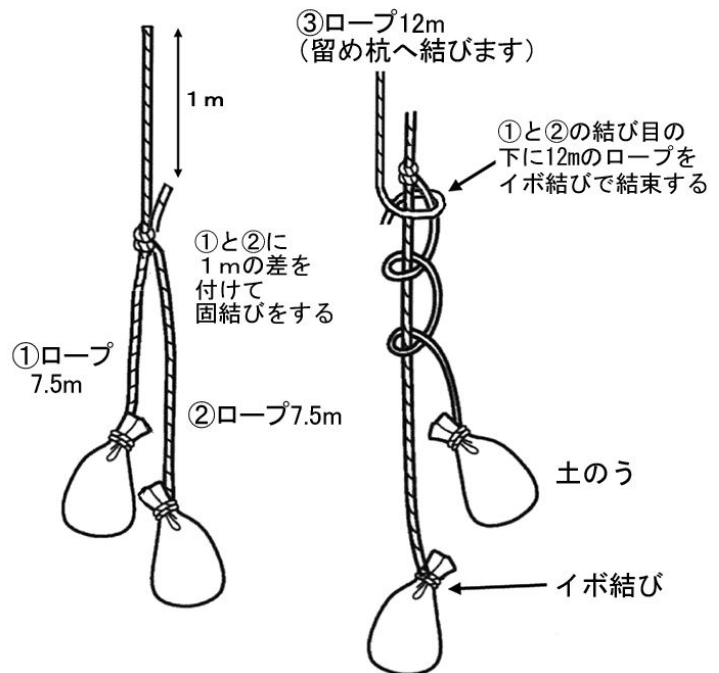


⑤あおり止めの重し土のう

重し土のう2袋をシート上流部にあおり止めとして用意します。

まずロープ(7.5m)2本を1m程の差をつけ、固結びで結束し、2回、のの字結びでねじります。

さらにロープ(12m)とイボ結びで結束します、そのロープを上流側の留め杭にフナ結びで固定します。重し土のうとロープの結束はイボ結びで行います。

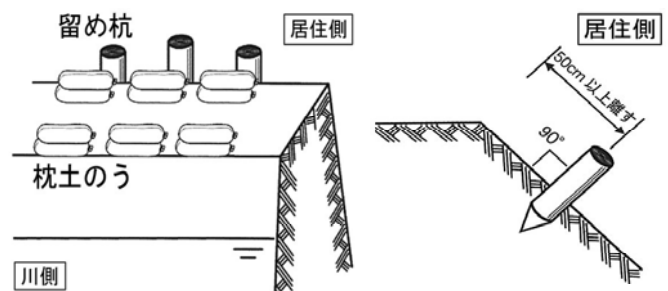


〈あおり止めの重し土のうの結束〉



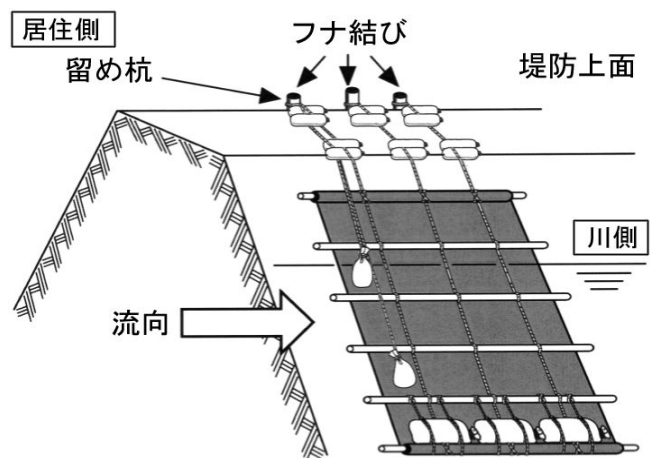
⑥ 枕土のう

枕土のう 12袋は、堤防の両側の肩にそれぞれ2袋ずつ6カ所、土のうのしぼり口を下流側に向けて設置します。



⑦ 留め杭の打ち込み

留め杭の打ち込みは、堤防の居住側斜面に3箇所、千鳥に打ち込みます。



⑧ シートの投げ入れ

3本の留め杭にシート吊りロープ3本と重し土のうの付けたロープ1本をフナ結び（より結び）で結束します。シートを転がすように投げ込み、最後にあおり止めの重し土のうを上流側に入れます。

※シートを投げ入れる際は、命綱等の安全対策を行ってください。

● シート張り工数量表（1組1枚当たり）

人 員	資 材				器 具		
	名 称	形 状 寸 法	単 位	員 数	名 称	単 位	員 数
10人	シート	合成繊維シート（骨パイプ6本付き） 5.0m×3.0m	枚	1	スコップ	丁	1
	木杭	末口9cm長さ1.2m	本	3	かけや	丁	1
	土のう	ひもつき	袋	17	←枕土のう12袋含む		
	ロープ	φ6mm×6.5m	本	6	←重し土のうの取り付け用		
	ロープ	φ9mm×7.5m	本	2	←あおり止め土のう取り付け用		
	ロープ	φ9mm×12.0m	本	1	←あおり止め土のうの留め杭固定用		
	ロープ	φ9mm×25.0m	本	3	←シート吊り用		
	土砂	（土のう袋詰め用）	m ³	0.2			